

令和6年度 学校評価（自己評価及び学校関係者評価）

上島町立魚島小・中学校

〈小学校の教育目標〉 『よく考え、進んで実行する児童の育成 - 自己教育力の育成 - 』

〈中学校の教育目標〉 『自ら考え、進んで実践する生徒の育成 - 自己教育力の育成 - 』

評定：A=対象の80%以上が肯定 B=対象の70%以上が肯定 C=対象の60%以上が肯定 D=対象の60%未満が肯定

				6 年 度	5 年 度		
項目	評 価 指 標			評 定	評 定	自己評価	
教育目標	1	教職員	学校の教育目標の達成に向けて、具体的にに取り組んでいる。	A	A	児童生徒の回答について、昨年度と評定は変わらないが、「どちらかといえばあてはまらない」があった。 児童生徒が自分の考えを基に、自分に自信を持って物事を進めることができるようになるために、様々な成功体験を積みませられるような手立てを考える。	
		児童生徒	「よく（自ら）考え、進んで実行（実践）すること」ができている。	A	A		
		保護者	学校は、「よく考え、進んで実行（実践）する子どもの育成」の実現のために、積極的な取組をしている。	A	A		
		地域	学校は、「よく考え、進んで実行（実践）する子どもの育成」の実現のために、積極的な取組をしている。	A	A		
	2	教職員	「心豊かな児童生徒を育てる」のために、具体的にに取り組んでいる。	A	A	昨年度と比べ、地域の評定が下がった。一方で、地域の記述式回答からは、児童生徒の様子を褒めていただく内容もあった。 学校・地域・家庭や寮による温かいまなざしによる児童生徒の育成により、児童生徒全員が「学校が楽しい」と言えるよう、連携を強化していく。	
		児童生徒	学校は楽しい。	A	A		
		保護者	児童生徒は、元気に生き生きと学校生活を送っている。	A	A		
		地域	児童生徒は、元気に生き生きと学校生活を送っている。	B	A		
学力・学習習慣・学習指導	3	教職員	基礎・基本の充実を図り、確かな学力の定着・向上に向けて積極的に取り組んでいる。	A	A	昨年度と比べ、保護者の評定が2段階下がった。教職員と児童生徒の回答に大きな隔たりがある。 全国学力・学習状況調査をはじめとする各調査による数値を基に、客観的に児童生徒の学力を分析して、学力の更なる向上に努めていく。	
		児童生徒	学習したこと的基础・基本がわかる。	A	A		
		保護者	児童生徒は、学習したこと的基础・基本がきちんと身に付いている。	C	A		
		地域					
	4	教職員	児童生徒に、発表の仕方や表現力が身に付くよう指導している。	A	A	昨年度と比べ、地域の評定が上がり、保護者の評定が下がった。また、昨年度に引き続き児童生徒の回答に「どちらかといえばあてはまらない」が見られる。 学習管理アプリへの一日の振り返りコメントの書き込みや、連絡帳への日記の書き記しを継続していくことで、表現力の伸長に努める。さらに、全体の場、大勢がいる場での発表の機会も増やす。	
		児童生徒	自分の意見や考えをはっきりと伝えることができている。	A	A		
		保護者	児童生徒は、自分の意見や考えをはっきりと伝えることができている。	B	A		
		地域	児童生徒は、人前でも自分の意見や考えをはっきりと伝えることができている。	A	B		
	5	教職員	指導法や指導体制の工夫・改善に努め、分かる授業づくりに取り組んでいる。	A	A	児童生徒全員が「あてはまる」と回答している。 少人数であるため、個に応じた指導ができることが本校の強みである。それを生かし、今後も「分かる・できる・楽しい」授業になるように更なる授業改善に努める。	
		児童生徒	先生たちは、分かりやすく教えてくれている。	A	A		
		保護者	学校は、楽しく分かりやすい授業づくりに努めている。	A	A		
		地域					
	6	教職員	効果的な宿題の提示や自主学習の在り方など、具体的な指導に取り組んでいる。	A	A	昨年度と比べ、児童生徒と保護者の評定が下がった。 学習習慣の確立のためには、家庭や寮との連携した指導が不可欠であると考え。記述式の回答で、課題内容についての御提案もあった。課題の量や内容に関して、検討・改善を行い、家庭や寮との連携も深めていく。	
		児童生徒	小学生は宿題や自主学習を20分(1年)・30分(2年)・40分(3年)・50分(4年)・60分(5年)・70分(6年)、中学生は自主学習を60分以上している。	C	B		
		保護者	児童生徒は、家庭学習の習慣が身に付いている。	B	A		
		地域					
学校行事	7	教職員	学校行事や体験的な活動は、創意工夫・改善できている。	A	A	全て良好な回答であった。 行事を行う際には、それが遊びにならないように、意義を伝える事前指導や、成長の見取りのための事後指導を行っている。また、行事のオンライン配信を行うことで、来校することが難しい保護者にも行事に参加していただいた。今後も継続していく。	
		児童生徒	学校行事や、学校での色々な体験活動には満足している。	A	A		
		保護者	魚島小・中学校の学校行事（運動会や合同発表会等）は、充実している。	A	A		
		地域	魚島小・中学校の学校行事（運動会や合同発表会等）は、充実している。	A	A		
心の教育	8	教職員	道徳、学級活動、人権集会などの充実に努め、自他の生命尊重や人権意識の高揚を図っている。	A	A	保護者の回答の中に「どちらかといえばあてはまらない」が見られる。 今年度は昨年度にも増して児童生徒数が増えたため、一斉授業や、全員を小集団に再編成した班活動などを多く行った。児童生徒だけでなく、教員も参加し、全員で一緒に考える人権教育の場も設けた。今後も継続する。	
		児童生徒	まわりの人に親切にしたり、仲良くしたりできている。	A	A		
		保護者	学校は、児童生徒の人間関係づくりに努めている。	A	A		
		地域					

進路指導	9	教職員	将来の夢や希望について話したり、考えたりする機会を設けている。	A	A	児童生徒の回答の中に「どちらかといえばあてはまらない」が見られる。 小学校は、中学校での職場体験を見据えた「プレジョブチャレ」を行った。中学校は、「職場体験学習」や進路実現のための進路指導を行った。児童生徒が自己の将来に明るい展望が持てるように、キャリア教育の更なる充実を図る。
		児童生徒	将来の夢や希望について話したり、考えたりしたことがある。	A	A	
		保護者	児童生徒は、自分の将来の夢や希望について話したことがある。	A	A	
		地域				
基本的な生活習慣	10	教職員	手洗いやうがい、「早寝・早起き・朝ご飯」など、基本的な生活習慣の育成に向けて、きちんと指導している。	A	A	昨年度と比べ、保護者の評価が下がり、「あてはまらない」の回答も見られる。 保健・体育委員による啓発活動も行っているが、定着が十分ではない。基本的な生活習慣の確立には、家庭や寮と連携した指導が必要であると考え。
		児童生徒	手洗いやうがい、「早寝・早起き・朝ご飯」が毎日できている。	A	A	
		保護者	児童生徒は、手洗いやうがい、「早寝・早起き・朝ご飯」など、基本的な生活習慣が身に付いている。	B	A	
		地域				
	11	教職員	進んで、気持ちの良い挨拶や礼儀正しい行動ができるよう、きちんと指導している。	A	A	児童生徒の回答の中に「どちらかといえばあてはまらない」が見られる。一方、地域からは「進んで挨拶ができるようになりました。」という記述回答も見られる。 当たり前のことが当たり前にできるように、道徳科の授業や朝の会・帰りの会などで指導したり、教職員が模範となるように努めたりしていく。
		児童生徒	気持ちの良い挨拶や、礼儀正しい行動ができている。	A	A	
		保護者	児童生徒は、気持ちの良い挨拶や礼儀正しい行動ができている。	A	A	
		地域	児童生徒は、進んで、気持ちの良い挨拶や礼儀正しい行動ができている。	A	A	
	12	教職員	交通ルールやマナーを守って、安全に過ごせるよう、きちんと指導している。	A	A	児童生徒と保護者の回答の中に「どちらかといえばあてはまらない」が見られる。 島内には信号がなく、車もそれほど走っていないため、交通ルール遵守が見落とされがちであるが、島外に出た時に、確実に守れるよう、啓発や指導を行っていく。
		児童生徒	交通ルールやマナーを守って、安全に過ごせるようにしている。	A	A	
		保護者	児童生徒は、交通ルールやマナーを守って、安全に過ごすことができている。	A	A	
		地域				
生徒指導	13	教職員	アンケートや教育相談などを活用し、全教職員が協力し、いじめや不登校問題の早期発見・対応に取り組んでいる。	A	A	昨年度と比べ、地域の評価が下がった。また、「わからない」の回答も増えた。さらに、児童生徒の回答の中に「どちらかといえばあてはまらない」が見られる。 学校では、毎日の何気ない会話や日記指導、「心のアンケート」、SSW（スクールソーシャルワーカー）による教育相談などを通し、児童生徒の悩みの把握に努めている。児童生徒の変化を見逃さないように、これからも引き続き一人一人に寄り添った関わりを続けていく。
		児童生徒	困ったことがあったら、保護者や先生に相談している。	A	A	
		保護者	学校は、いじめや不登校問題、その他の問題に対して早期発見・早期対応に取り組んでいる。	A	A	
		地域	学校は、いじめや不登校問題、その他の問題に対して早期発見・早期対応に取り組んでいる。	B	A	
清掃・奉仕活動	14	教職員	清掃活動や社会奉仕活動、ボランティア活動などの大切さを教え、一生懸命できるように指導している。	A	A	全て良好な回答であった。 本校では縦割りの清掃活動を導入している。児童生徒からは、自分の清掃担当場所以外にも「〇〇を清掃してもいいですか」と、自発的に清掃をしようとする姿が見られた。また、飼育・栽培委員会を新設し、花や生き物の世話も行っている。こうした活動を通し、清掃や花の手入れなどを積極的に行う態度が伸長されていると考える。
		児童生徒	そうじや、他の人の役に立つ行動を一生懸命している。	A	A	
		保護者	学校は、きちんと掃除や花の手入れができしており、校庭や校舎がいつも美しく整備されている。	A	A	
		地域	学校は、きちんと掃除や花の手入れができしており、校庭や校舎がいつも美しく整備されている。	A	A	
施設設備	15	教職員	非常時に適切に対応できるような訓練や指導の充実に努めている。	A	A	全て良好な回答であった。昨年度と比べ、児童生徒の評価は上がったが、中には「どちらかといえばあてはまらない」が見られる。 今年度は「学校防災教育実践モデル地域研究事業」を受け、防災教育を重点的に行った。次年度以降も避難訓練の内容や状況の設定の工夫することで、児童生徒の実践力を更に伸長させる。
		児童生徒	地震や火事のときや、不審者に出会ったときの安全な逃げ方を知っている。	A	B	
		保護者	災害や不審者に対して、安心して子どもを預けられる安全面に配慮した学校だ。	A	A	
		地域	災害や不審者等に対して、安心して子どもを預けられる安全面に配慮した学校だ。	A	A	
保護者・地域との連携	16	教職員	家庭や地域と適切に連携を図ったり、学校の取組を理解してもらうための情報発信に取り組んでいる。	A	A	昨年度と比べ、児童生徒の評価が上がった。 昨年度から、学校からの配布物の一部を学習管理アプリを活用し、配信している。また、児童生徒の毎日の様子を、ホームページと学習管理アプリで発信している。今後も学校での取組に御理解・御協力していただくために、続けていく。
		児童生徒	学校からのプリントを保護者にきちんと渡している。	A	B	
		保護者	学校だよりやホームページなどを通して、学校の取組の様子を把握することができている。	A	A	
		地域	学校だよりやホームページなどを通して、児童生徒の様子を把握することができている。	A	A	